

令和7年度 静岡市
SDGsチャレンジ連携アワード
連携事例集



静岡市

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

静岡市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【制作・発行】

静岡市

【お問合せ】

静岡市総合政策局企画課

静岡市葵区追手町5番1号

TEL054-221-1022

【印刷】

ナガハシ印刷株式会社



市長挨拶

静岡市長
難波 喬 司



令和7年度は、静岡市 SDGs チャレンジ連携アワードと名称を改め、評価基準に「挑戦性」を含めての事例募集となりました。SDGsの達成期限まで残り5年となった今年度からは、新しい分野・資源・切り口による取組事例を表彰し、さらなる SDGs の推進を図っていきます。

今回は14件の多様な取組事例の応募がありました。毎年、数多くの事業所・団体の皆様からのご応募をいただき、厚く御礼申し上げます。

これまで4回実施してきた SDGs 連携アワードにおいては、産学官が一体となり、垣根を超えた連携事例が回を重ねるごとに増加しており、その進展を大変嬉しく思います。今回の取組事例も、事業所・団体がそれぞれの強みを活かして「共創」したものが多く寄せられています。受賞事例においては、地域のコミュニティ形成や若者の主体的な活躍、他地域にも取組を広げていく展望といった挑戦的行動を起こす取組にまで発展しています。

静岡市としましては、皆様が本事例集の取組を知ることで、新たな繋がりを見つけ、行動を起こすきっかけになることを期待しています。

1	はじめに（静岡市長 難波喬司）	1
2	令和7年度 静岡市 SDGs チャレンジ連携アワード 概要	4
3	大賞・アクション賞・ユース賞 事例紹介	5
	【大賞】 インクルーシブ防災活動でつながる、 災害時にも誰一人取り残さない地域づくり	6
	【アクション賞】 鉄道制服がバッグに大変身！ 静岡鉄道 × 地元ブランドのアップサイクルプロジェクト	8
	【ユース賞】 産官学民連携により、 麻機遊水地の生物多様性を未来に紡ぐ	10
4	連携した取組事例紹介	
	 1 貧困をなくそう	
	 2 飢餓をゼロに	
	 3 すべての人に健康と福祉を	
	・ Be supporters! いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ『人生の先輩からのエール企画』 …	12
	・ 地域をもっと元気に! 買い物支援を通じた健康・福祉の拠点づくり	13
	 4 質の高い教育をみんなに	
	・ SUSTAINABLE GARDEN PROJECT 2.0	14
	・ 地域と学校の接続、「何にもしない合宿」!	15
	 5 ジェンダー平等を実現しよう	
	・ はたらいて、笑顔の輪をつくろう～ Well-beingな環境づくり～	16
	 6 安全な水とトイレを世界中に	
	・ ～途上国・新興国での水とスポーツを結び付けた社会貢献活動～	17

 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	
 8 働きがいも経済成長も	
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
・ 地域企業の未利用特許を活かした商品開発支援	18
 10 人や国の不平等をなくそう	
 11 住み続けられるまちづくりを	
・ インクルーシブ防災活動でつながる、災害時にも誰一人取り残さない地域づくり	6
・ リフィル行動で、使い捨て容器を減らそう	19
・ 地域共創～呉服町から発信する魅力ある静岡市!	20
 12 つくる責任 つかう責任	
・ 鉄道制服がバッグに大変身! 静岡鉄道×地元ブランドのアップサイクルプロジェクト	8
 13 気候変動に具体的な対策を	
・ 公民連携で地域で熱中症を減らす取組への挑戦	21
 14 海の豊かさを守ろう	
 15 陸の豊かさを守ろう	
・ 産官学民連携により、麻機遊水地の生物多様性を未来に紡ぐ	10
・ 美しい松原の風景を後世に 三保松原保全啓発	22
 16 平和と公正をすべての人に	
 17 パートナリーシップで目標を達成しよう	
5 連携事業所・団体 一覧	23

1 静岡市 SDGs チャレンジ連携アワードとは

地域課題の解決に向け、SDGsの目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）を通じた事業所・団体間で連携した新しく挑戦的な取組を増やすことを目的とした、SDGs達成に向けて行われる取組のうち、新たな分野・資源・切り口等による挑戦的な取組を行っている2以上の異なる事業所・団体によるグループを表彰します。

2 評価項目及び基準

提出された「応募シート」の記載内容から、【挑戦性】【効果】【連携性】【持続性】の4項目について評価を行い、選考委員会の意見を踏まえ、総合的に表彰対象を選考します。

項目	着目点	項目	着目点
挑戦性	目新しさ・ユニークさがあるか (他で知られていないような取組又は挑戦的な取組か)	連携性	様々な分野（産学公民）による連携が行われているか (様々な事業所・団体が参加しやすい) (限られた事業所・団体でのみの連携可能な取組でないか)
効果	17の目標の達成に貢献できるか (環境・経済・社会のいずれもの目標達成に貢献しているか) (SDGsの普及、啓発だけにとどまっていない)	持続性	環境への影響や経済的な面からみて持続可能な取組といえるか

3 応募におけるメリット

**事例集に掲載されることによる
情報発信と取組の深化**

・取組が広く知られることで、取組への協力者が増える

**他事業所・団体との協力により、
他分野への挑戦が可能に**

・様々な知見やノウハウが集まり、課題解決につながる

4 令和7年度 選考委員会 委員

選考委員会は、SDGsに関する学識経験者、環境・経済に関係する有識者から委員を構成しています。

	氏名	所属
委員長	 佐久間 信哉	慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員
委員	 楠本 浩史	関東地方環境事務所地域循環共生圏構想推進室 推進官
委員	 阪口 瀬理奈	一般財団法人静岡経済研究所 特任研究員



大賞



アクション賞



ユース賞



大賞

選考委員からのコメント



佐久間 信哉氏

「インクルーシブ防災」は、誰一人取り残さないというSDGsの特に重要な理念を体現するものであり、それに賛同した地域住民を始めとした様々な方々や企業・団体の連携によって多年にわたって続いている非常に優れた取組であり、大賞にふさわしい活動と言えます。



楠本 浩史氏

地域に根差した取組となっており、定型的なイベントの実施に留まらない工夫、地域の巻き込みという点を高く評価させていただきました。世代を超えた取組では、子供達の興味・実践につながるキャンプ等の取組はバージョンアップしながら継続いただきたいと思います。

受賞者のコメント



西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会

地域住民と保健福祉専門職で構成される実行委員会を中核に、地縁組織、学校・PTA、行政・社協、福祉施設、大学、企業など多様な団体等の参加・協力を受け、福祉と防災が融合する参加型で実践的なインクルーシブ防災活動を継続・発展させ、災害時にも誰一人取り残さないよう、平常時から住民同士がつながり支え合える地域づくりを目指しています。

インクルーシブ防災活動でつながる、災害時にも誰一人取り残さない地域づくり

西豊田実行委員会×豊田中・西豊田小×静岡市×静岡市社協×イワタニ×明治安田

1.取組概要	地域住民と保健福祉専門職で構成する実行委員会を中核に、多様な関係機関等との連携による福祉と防災が融合するインクルーシブ防災活動を西豊田学区を基盤に継続実施しています。活動テーマは災害時の要配慮者支援に置き、その目標は災害時にも誰一人取り残さない、平常時に支え合える地域づくりです。参加型で実践的な活動として、事前研修、ワークショップ、宿泊型防災訓練、シンポジウムを行い、昨年度は防災かまどベンチづくりや親子防災キャンプを実施しました。	
取組継続年数	10年目	
2.該当するSDGs目標・ターゲット	避難所運営を事前研修で、要配慮者の支援をワークショップで学び、それを宿泊型訓練で実践し、シンポジウムで検証することで災害に強い地域づくりを目指します。	3.目標に対する達成状況、実績 誰一人取り残さないをスローガンとするSDGsにおいて、第3回国連防災世界会議で「インクルーシブ防災」が提唱されました。災害時でも自動にハンディのある高齢者や障がい者など要配慮者が支援の手からこぼれないよう、平常時から支え合えるまちづくりに取り組んでいます。本活動は、日本地域福祉学会「第19回地域福祉優秀実践賞」受賞など評価されています。
【ターゲット:】11.b	2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。	
4.取組が開始されたきっかけ・課題意識	要配慮者支援は地域防災の喫緊の課題であるにも関わらず具体的な取組が進んでいません。担い手不足・高齢化や住民同士の関係性希薄化などで地域防災活動も停滞している現実があります。静岡市障害者協会が西豊田学区で実施した宿泊型防災訓練に参加・協力した地域住民や保健福祉専門職がこれを「イベントで終わらてはもったいない！」からスタートしました。	
その他関連するSDGs目標		

5.取組イメージ

2016年から活動を開始し、バージョンアップしながら継続・発展させています。特に地域防災訓練が中止(又は規模縮小)の中、コロナ禍だからこそできること・すべきことがあると活動を継続しました。昨年度は基盤活動に加え、学区指定避難所の小・中学校に「防災かまどベンチ」を多世代参加で制作し、冬の親子避難所キャンプを実施しました。



6.応募した取組の今後の計画・展開

活動10年目に入り、二つの大きな課題に対して具体的な取組を進めます。一つ目の課題は静岡市で最も人口の多い学区内での活動の浸透。二つ目の課題は先駆的・実践的と外部からも評価されている活動の他地域への拡大。福祉防災を切り口とする住民主体の地域支え合い体制づくりモデルとしてこの活動を波及させていきます。その手段として、令和7年度真如苑防災公募助成に採択され、西豊田モデルの活動手引きとDVDを作成します。地域で取り組むためのわかりやすい進め方ガイドとDVD映像を活用して課題に取り組みます。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

1. 実体験による新たな地域防災活動
硬直化している地域防災活動に対し、「①楽しく、②主体的に、③共に」で取り組む新たなインクルーシブ防災活動のモデルを確立。
2. 多世代交流による共助力の向上
どの世代にも関係し、関心が高い防災と要配慮者への災害時の実践的支援活動を融合させ、地域の共助力や福祉力の向上に貢献。
3. 多様な団体等と連携した活動実践
住民地縁組織だけでなく、様々な地域の団体等の参加・協力を受けてより実践的で創造的な福祉防災でつながる新たな活動を展開。
4. 住民主体の支え合える地域づくり
行政主体のトップダウンではなく、住民主体で平常時に支え合える地域づくりを目指すボトムアップ型の地域共生社会づくりへの挑戦



アクション賞

選考委員からのコメント



佐久間 信哉氏

再利用に制約のある廃棄予定の鉄道制服を、沿線地域の事業者と連携してバッグなどにアップサイクルする新たな取組であり、今後継続していくことにより、規模の拡大や他の地域への波及が期待される活動であると考えます。



阪口 瀬理奈氏

多くの人々にとって記憶や愛着と結びついた鉄道の制服を廃棄せずに新たな価値へと転換したことで、「アップサイクル」の概念への関心や理解を広げていると感じます。象徴と実践を兼ね備えた取組として、今後も大いに期待したいプロジェクトです。

受賞者のコメント



代表者／静岡鉄道株式会社 鉄道部長 中村 真也 様

当社では、環境性能に優れた車両の導入や再生可能エネルギーの活用、環境啓発イベントなど、環境への取組を進めてまいりました。しかし、環境問題の解決には地域との連携・協働が不可欠であると考えています。このたび、沿線企業である「ものがたりを着るお店 choosy」様や「静鉄アド・パートナーズ」様とともに廃棄予定の制服をアップサイクルし、新たな価値を生み出すことができたことを嬉しく思っております。今後も環境意識の向上と地域の活性化に貢献できるよう努めてまいります。

鉄道制服がバッグに大変身！静岡鉄道×地元ブランドのアップサイクルプロジェクト

静岡鉄道(株) ×ものがたりを着るお店choosy×(株)静鉄アド・パートナーズ

1.取組概要	静鉄電車沿線の事業者と連携し、鉄道・索道事業において定期更新により通常廃棄される制服を原料として、ショルダーバッグやエコバッグなどのアップサイクル商品を製作しました。製作した商品は、静鉄電車のイベント時に販売を行っており、併せて本プロジェクトの背景や目的を紹介する動画やパネルを展示することで、環境への意識啓発や沿線地域の活性化につなげています。
取組継続年数	1年目

2.該当するSDGs目標・ターゲット	12 つくる責任 つかう責任 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
3.目標に対する達成状況、実績	2024年度廃棄予定であった制服を用いて、アップサイクルを行いました。(ジャケット14着、パンツ28本、シャツ56着、ネクタイ14本の廃棄削減に貢献している) また本取組が新聞や静岡ビジネスレポートで紹介されるなど、関係企業団体のイメージ向上につながりました。静鉄電車ファンや地域の皆さまへ商品を届けることで、沿線の活性化にも寄与しております。

【ターゲット:12.5】
2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

その他関連するSDGs目標

4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識

一定の期間ごとに制服の交換をしているが、制服の特性上、リユースやリサイクルが難しく、これまででは、やむを得ず廃棄という選択をしてきた中、古着の販売や服のお直し、アップサイクル商品の販売などを行いながら、環境活動にも取り組んでいる「ものがたりを着るお店choosy」から、制服アップサイクルの提案をいただいたことがきっかけです。

5.取組イメージ

- ①制服交換時に出た不要の制服をchoosyに譲渡
- ②choosyが各デザイナーに依頼
- ③アップサイクル商品の製作
- ④静鉄電車のイベントで販売・環境啓発(廃棄しない選択をPR)

製作の様子(当社HPにて動画公開中)
https://youtu.be/uulXA8_4CuU?si=wScPLHl4MJ0tE8r

パネルデザイン

掲出の様子(トレインフェスタ)

6.応募した取組の今後の計画・展開

【アップサイクル商品の継続販売】
制服更新のタイミングにあわせて、引き続き、廃棄予定の制服を提供し、アップサイクル商品の継続的な販売を行います。あわせて、環境啓発につながるPR活動も継続して実施してまいります。

【同業他社へ展開】
制服の特性上、これまで廃棄を選択してきた他社に対し、本取組を紹介し、アップサイクルの可能性を広くアピールしていきます。

【静岡鉄道と連携したファッションショーの展望】
廃棄制服を活用した衣装をモデルが着用し、ファッションショーが可能を検討しています。環境啓発活動をより多くの市民へ周知したいと考えております。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

【鉄道制服という“再利用困難素材”への挑戦】
本取組は、静岡県内で初めて鉄道会社の制服をアップサイクルしたものであり、全国的にも稀有な事例です。鉄道制服は、犯罪・テロ対策として一般的にリユースやリサイクルが困難とされてきました。その「再利用が難しい」という課題に対して、沿線地域の小規模事業者と連携し、“鉄道らしさ”というブランド価値を活かしながら、日常使いができる高品質な製品へと昇華させました。

【子育て世代の女性を起用一多様な働き方の創出】
アップサイクル製品の製作には、子育て中の女性クリエイターを起用。家庭と仕事を両立しながら得意分野を活かすという形で、柔軟で持続可能な雇用機会を創出しています。これはSDGs目標8「働きがいも経済成長も」や目標5「ジェンダー平等の実現」にも通じる取組であり、就労機会に制約を抱える人々の社会参画モデルとしても意義を有しています。

【廃棄ゼロと持続性—制服更新サイクルを逆手に取る】
鉄道制服は一定期間ごとに更新が必要となるため、今後も安定的な素材供給が可能です。これにより、単発の企画ではなく、持続的なアップサイクル事業として定着させる仕組みを構築しました。また、「制服を廃棄しない」という新たな選択肢を社会に提示すべく、社内外への発信活動にも注力します。自社HPやYouTubeでの啓発動画配信、さらには他社と連携したイベントでのパネル展示などを通じて、業界全体への波及効果も目指しています。



ユース賞

選考委員からのコメント



楠本 浩史氏

地域の自然環境を保全していくうえで、継続やその組織体形成が大きな課題となっています。本取組は産官学民といった多様な連携を構築することにより、その課題をクリアできる可能性があります。次年度以降においても本取組や地域での関わりを拡げて行っていただきたいです。



阪口 瀬理奈氏

「地球上最悪の侵略的植物」とされる課題に対し、産官学民がそれぞれの強みを発揮し、複数の団体がフラットに連携している点を高く評価しました。とりわけ、学生が調査研究にとどまらず実践まで担っている点は、非常に稀有で意義深い事例だと感じます。

受賞者のコメント



代表者／静岡理科大学 理工学部土木工学科 准教授 居波 智也 様

このたびは栄えある賞に選出いただき、誠にありがとうございます。ユース賞受賞は、麻機遊水地の自然回復に向けて産官学民が一体となり挑戦してきた努力の結晶です。多様な視点と知恵を結集し、ネイチャーポジティブの理念を地域に根付かせることができたのは、皆様の熱意と協力のおかげです。この評価を未来への責任として受け止め、地域の力と科学的知見をさらに融合させ、持続可能な生態系の再生に向けて歩み続けます。

産官学民連携により、麻機遊水地の生物多様性を未来に紡ぐ

麻機遊水地ネイチャーポジティブ産官学民連携チーム
 静岡理科大学理工学部居波研究室×常葉大学社会環境学部浅見研究室×麻機フェットランドクラブ×昭和设计機× 株式会社自然回復× 株式会社環境アセスメントセンター×(一社)グリーンパークあさひ×静岡県環境アセスメント協会×静岡銀行

1.取組概要	静岡市麻機遊水地は、令和5年度に環境省「自然共生サイト」に登録され、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」として注目を集めています。しかし、近年では「地球上最悪の侵略的植物」とも呼ばれる特定外来生物ナガエツルノゲイトウが急速に分布拡大し、生物多様性に深刻な影響を及ぼし始めています。こうした状況を打開するため、大学・団体・企業・協議会が連携し、防除活動を継続的に実施するとともに、広報にも力を入れ、活動の輪を広げています。	 2025年7月 ナガエツルノゲイトウ防除102袋
取組継続年数	2年目(令和6年3月から、各種団体によるウェブ会議・防除活動を重ね取組継続)	
2.該当するSDGs目標・ターゲット	 生物多様性もたらす恩恵は、私達が健やかに生きていくうえで欠かせないものです。この活動を通じて、自然の恵みにあふれた麻機遊水地の生態系・種・遺伝子の多様性を未来へと守り続けることを目指しています。絶滅危惧種や普通種といった動植物だけでなく、人々が安心して暮らせる地域づくりにもつながることを願っています。 【ターゲット:】 15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止のための緊急かつ意味のある対策を講じる。 15.8 外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の防除または根絶を行う。 6-6. 山や森林、湿地、川、地下水を含んでいる地層、湖などの水に関わる生態系を守り、回復させる。 9-1. すべての人のために、安くて公平に使えることを重視した経済発展と福祉を進めているけるように、質が高く、信頼でき、持続可能な、災害などにも強いインフラをつくる。それには、地域のインフラや国を超えたインフラも含む。	
3.目標に対する達成状況、実績	令和6年3月: 株式会社自然回復による勉強会きっかけ情報交換・産官学民による連携開始 令和6年5月: クリーン作戦における防除・展示 令和6年5月~9月: ウェブ対策会議 令和6年10月: 防除・麻機遊水地フェスタ展示 令和6年12月: 浅畑川で防除 令和7年3月~4月: 防除 令和7年5月: クリーン作戦における防除・展示 令和7年5月~7月: ネット設置・防除・ドローン調査	 ナガエツルノゲイトウ防除は毎回50~102袋
4.取組が開始されたきっかけ・課題意識	ナガエツルノゲイトウは繁殖力が強く、その急速な分布拡大が麻機遊水地の生態系のバランスを崩すことにつながる可能性が高まっています。さらに、下流の大谷川・巴川・田んぼ・清水港湾内でもナガエツルノゲイトウが確認されており、将来的には排水路やポンプ場の目詰まりによる浸水被害の拡大、世界遺産・三保の松原の砂浜への影響も懸念されています。このため、活動の輪を広げていくことが求められています。また、本取組は環境や防災面に貢献するだけでなく、企業にとってはCSRやTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の対応の場、大学などにとっては教育・研究の場ともなり、環境・経済・社会という観点で重要性が増加しています。	
その他関連するSDGs目標		

5.取組イメージ

麻機遊水地における生物多様性の保全を共通の目標として、各主体が得意分野を活かし役割を担いながら協力体制を構築し、ナガエツルノゲイトウの防除に取り組んでいます。市・県・協議会に指導を仰ぎながら、産官学民連携による環境教育・広報、大学研究室や学生と連携した調査・研究、防除など、多岐にわたる活動が自主的に進められています。また、ウェブ会議やオープンチャットを活用した討論・情報交換を通じて、産官学民連携による自由参加型の活動が継続しています。

1 どのような三保の松原 ナガエがもたらす困りごと

1 どのような三保の松原 ナガエは麻機遊水地から下流に流れ、大谷川・巴川河口まで増殖しました。海水でも繁殖しないナガエは海流や船で運ばれ、砂浜にも根付きます。世界遺産・三保の松原の砂浜はナガエだらけになるかも。

2 水が流れなくなる 水際のナガエが増えるとゴミがたまり、水の流れも悪くなります。治水対策のため麻機遊水地に埋め立てたせいで、麻機遊水地が干涸びる恐れがあります。

麻機遊水地の自然に危機が迫っています!

環境教育 → 広報 → 大学調査研究 → 防除 → 生物多様性

6.応募した取組の今後の計画・展開

季節ごとに連携防除イベントを計画しつつ、オープンチャットによる自由討論を継続します。また活動の輪を広げる広報・環境教育として、展示や動画発信などを行います。

■主な防除イベント(予定)
 ・夏6月、秋10月、冬12月、春3・5月
 ■主な広報・環境教育活動
 ・展示解説7・12月

TNFD・CSR報告書情報発信

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

ナガエツルノゲイトウの繁茂を抑制し、地域の生物多様性を未来に向けて保全するためには、大学による防除対策研究×ドローン調査による経年比較とともに、産官学民の連携の輪を拡大する必要があります。このため、広報・教育を強化しながら、みんなが参加したくなる防除イベントを計画していきたいと考えています。

2025年7月, 2025年5月, 2025年3月, 2025年5月, 2025年6月

Be supporters! いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ『人生の先輩からのエール企画』

(株)エスパルス × サントリーウエルネス(株)
× 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ × 静岡県内 高齢者施設11施設

<p>1.取組概要</p>	<p>『人生の先輩からのエール企画』は、人生の先輩たち(65歳以上の高齢者)だからこそ書けるエール(応援メッセージ)を集め横断幕を作成しクラブや選手に届けた後、敬老の日近くの試合にて掲出するサントリーウエルネスとJリーグによるプロジェクトです。全国で選ばれたJリーグ20クラブが実施し、県内での参加クラブはエスパルスのみとなります。高齢者施設をクラブスタッフやマスコット、ダンススクール生が訪問し、レクリエーションや運動教室で交流しながら施設入居者や利用者の皆様にエールを記入いただきます。いつかは皆、年を重ねるもの。横断幕掲出時には、家族3世代が楽しめるブースやシニア限定企画も実施し、年齢問わずより多くのファン・サポーターに本企画を知っていただく発信も行っています。</p>		
<p>取組継続年数</p>	<p>3年目</p>		
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3 3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>超高齢化社会の中で健康寿命と平均寿命の差は男性で約8.5年、女性で約11.6年と誰かに‘支えられる’期間が人生の中である場合が多いのが現状です。クラブや選手を応援することでワクワクしたり繋がりが生まれ、誰かを‘支える’体験で新たな活力を見出します。</p>	<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3 3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>2024年 11施設ほか421名 総年齢29,707歳が参加 (2025年 約20施設にて現在実施中)</p> <p>2024年活動の様子 エスパルス公式Youtube https://www.youtube.com/watch?v=Rrw2udCYPPw</p>	<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>
<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>	<p>2024年 11施設ほか421名 総年齢29,707歳が参加 (2025年 約20施設にて現在実施中)</p>	<p>2024年活動の様子 エスパルス公式Youtube https://www.youtube.com/watch?v=Rrw2udCYPPw</p>	<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>
<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>	<p>Be supporters!とは、サントリーウエルネスが2020年からスタートさせたプロジェクト。高齢者施設で暮らすシニアの方々がクラブのサポーターになることで「支えられる人から、支える人へ」を実現するもので、『人生の先輩からのエール企画』はその一環として行われています。エスパルスでは幅広い年代へ生涯スポーツの普及を行いたいシニアプログラムも展開していますが、これまでクラブ会場での活動が多かった中、近年は会場に来られない方のためにクラブが施設に向く活動もスタートし、本企画にもエントリーしています。</p>		
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに 11 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p>		

5.取組イメージ

エール集めの訪問時には、オレンジのウェアを着用いただき、応援の一体感を味わいながらレクリエーションや運動教室で楽しく交流をさせていただいています。完成した横断幕は練習場に掲出し、選手が直接心に残ったメッセージの横にサインを記入した後、敬老の日近くの試合で披露しました。昨年は企画後に完成したバナーとともに2施設へ御礼訪問も行いました。



6.応募した取組の今後の計画・展開

エールを記入いただいた高齢者を試合に招待し一緒に応援いただきたと考えていますが、スタジアムのアクセスや設備面でなかなか叶わないことも多いのが現状です。そのため、練習見学で選手と交流いただいたり、試合がない日にスタジアム見学ツアーを実施してピッチを体感いただいたり、様々な形でクラブと接点を持っていたりするような企画を検討していきます。

高齢化が進む中で、クラブは試合や地域イベント以外の新たな場所での高齢ファン・市民との接点作りを取り組む必要があると感じています。本企画での経験や施設とのつながりをもとに、Jリーグクラブのノウハウを活かした新たな高齢者との接点創出を検討していきたいと考えています。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

◇地域におけるサッカーとエスパルスの価値 / 「サッカー・エスパルス」という共通言語

「今は観戦に行っていないけれど、昔はよく日本平に行って楽しんでたよ」、「〇〇選手は近所に住んでいて、子供の頃からサッカーが上手くてね」といった話をする高齢者の方や、誰もがマスコットのバルちゃんを知っていて、施設訪問時にバルちゃんの登場に歓声をあげ、強く手を握っている様子や泣いて喜んでくれる方もいたのが印象的です。普段は見せない高齢者の方々の姿に、施設職員の方からも、「普段よりも目を輝かせていました」、「あんなにも生き生きと話をする姿は初めて見ました」という声が聞かれ、「他の地域では野球が一番の世代ですが、想像以上にシニアの方々がエスパルスに興味をお持ちで詳しく『やはりサッカーの街だな』と強く感じました」と企画関係者からも話がありました。

希薄になりがちな高齢者とクラブ・社会・若者を繋ぐ役割を果たすこと。サッカーを通じて様々な感情を共有すること。サッカー・エスパルスが共通の話題となりコミュニケーションが生まれること。エスパルスが地域の象徴でありアイデンティティとなること。いくつになってもエスパルスが生活の一部で、クラブと市民がお互いを応援しあえる存在となれるよう、「サッカー・エスパルス」という共通言語で街を元気にしていきたいと考えています。

地域をもっと元気に！買い物支援を通じた健康・福祉の拠点づくり

ウエルシア薬局(株) × (福)静岡市社会福祉協議会 × 地域

<p>1.取組概要</p>	<p>ウエルシア薬局(株)と(福)静岡市社会福祉協議会が連携、協働し、買い物に不便を抱える市民を対象とした移動販売事業を実施しています。運行を希望する地域(駿河区41か所、清水区44か所)を移動販売車「うえたん号」が巡回し、気軽に買い物ができる場の提供、外出する機会の創出、心身の健康の維持向上、豊かな地域コミュニティづくりを進めています。</p>		
<p>取組継続年数</p>	<p>2年目(清水区は1年目)</p>		
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3 3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>買い物ができる場の提供を通して、人と人、そして地域がつながり、社会的孤立を防止することで、すべての人が健康で、幸せに暮らせる地域づくりを目指しています。</p>	<p>2024年に駿河区、2025年には清水区で運行が開始されています。運行ルートの調整は(福)静岡市社会福祉協議会が担い、自治会や地域包括支援センター等と調整することで、より地域の実情に合った事業となっています。「うえたん号」の運行時には、市民同士が互いに誘い合ったり、停留所にベンチや看板を設置してくれたり、地域側の働きかけも生まれています。</p>
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3 3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>買い物ができる場の提供を通して、人と人、そして地域がつながり、社会的孤立を防止することで、すべての人が健康で、幸せに暮らせる地域づくりを目指しています。</p>	<p>2024年に駿河区、2025年には清水区で運行が開始されています。運行ルートの調整は(福)静岡市社会福祉協議会が担い、自治会や地域包括支援センター等と調整することで、より地域の実情に合った事業となっています。「うえたん号」の運行時には、市民同士が互いに誘い合ったり、停留所にベンチや看板を設置してくれたり、地域側の働きかけも生まれています。</p>
<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>	<p>2024年に駿河区、2025年には清水区で運行が開始されています。運行ルートの調整は(福)静岡市社会福祉協議会が担い、自治会や地域包括支援センター等と調整することで、より地域の実情に合った事業となっています。「うえたん号」の運行時には、市民同士が互いに誘い合ったり、停留所にベンチや看板を設置してくれたり、地域側の働きかけも生まれています。</p>	<p>買い物ができる場の提供を通して、人と人、そして地域がつながり、社会的孤立を防止することで、すべての人が健康で、幸せに暮らせる地域づくりを目指しています。</p>	<p>2024年に駿河区、2025年には清水区で運行が開始されています。運行ルートの調整は(福)静岡市社会福祉協議会が担い、自治会や地域包括支援センター等と調整することで、より地域の実情に合った事業となっています。「うえたん号」の運行時には、市民同士が互いに誘い合ったり、停留所にベンチや看板を設置してくれたり、地域側の働きかけも生まれています。</p>
<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>	<p>静岡市生活支援体制整備事業を通じて高齢者の生活課題として買い物が多く挙げられていることを把握しました。この課題を解消するため、移動販売車運行の実績を持つウエルシア薬局(株)と(福)静岡市社会福祉協議会が協力して取り組むことを決めました。地域への丁寧な聞き取りをもとに運行ルートを決めたことにより、地域課題の解消につながっています。</p>		
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>2 気候変動に具体的な対策を 11 気候変動に具体的な対策を</p>		

5.取組イメージ

- 2023年2月 ウエルシア薬局⇒「しずおか支え合い活動応援団」に登録
- 2023年8月 ウエルシア薬局⇒(福)静岡市社会福祉協議会(以下、静岡市社協)に「うえたん号」の運行を提案
静岡市社協⇒地縁組織や地域包括支援センター等にヒアリングを行い、ニーズ把握を進める
- 2024年2月 駿河区での運行スタート(停留所:27か所) ※2025年8月現在41か所に拡大
- 2024年5月 ウエルシア薬局⇒静岡市社協に清水区での運行を提案
静岡市社協⇒地縁組織や地域包括支援センター等にヒアリングを行い、ニーズ把握を進める
- 2025年2月 清水区での運行スタート(停留所:23か所) ※2025年8月現在44か所に拡大



6.応募した取組の今後の計画・展開

この事業は、市民の生活を支えると同時に、市内の様々な場所に健康・福祉の拠点を創る取組でもあります。「うえたん号」がきっかけとなって、外出の機会が増え、人と人の交流が生まれ、地域がつながり、皆が元気になっていく。そんな地域社会づくりに貢献したいと考えています。そのため、これまで以上に連携先を増やしていく必要があります。行政機関や介護保険事業者、障害福祉事業所等にも協力を求め、「うえたん号」を必要としている方とつながれる仕組みづくりを進めていきます。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

1. 「地域包括ケアシステム」の構築
「うえたん号」は、食品・生活日用品に加え、医薬品(要事前注文)も販売しています。また、車両に搭載した大型モニターではオンライン健康相談も可能です。誰もが医療にアクセスできる環境を整えることは、静岡市が進める「地域包括ケアシステム」の構築に寄与していると考えます。
2. 「地域の居場所」の一つとして
「うえたん号」の停留所は、自治会館、神社、団地、事業所、個人宅など様々ですが、どの停留所でも近所の方々が楽しくお話する姿が見られます。一人暮らし高齢者が増加する中、「うえたん号」が身近な地域の居場所として、孤立の解消、見守り強化にもつながっています。
3. 「しずおか支え合い活動応援団」の活性化
横展開による事業の拡充を進め、企業による地域貢献活動を促進する仕組み「しずおか支え合い活動応援団」の活性化を図ります。

SUSTAINABLE GARDEN PROJECT 2.0

静岡県信連 × (株)TOWING × (株)エスパルス

1.取組概要	静岡県信連は、農業・地域の持続的な成長・発展に寄与する組織として「Agrigional Coordinator」をパーパスに掲げ、SDGs活動にも積極的に取り組んでいます。本件は、清水エスパルスのサポーターと連携し、「親子で気軽に参加できる」ガーデニングを実施し、農業への理解と体験の機会を提供するとともに、植栽後にはスタジアム内の見学を実施することで、多くのお子さんにご参加いただきました。これらの活動はクラブや地域への愛着を育み、シビックプライドの醸成を図る取組でもあります。また、花壇には(株)TOWINGの高機能バイオ炭「宙炭(そらたん)」を施肥に活用しました。これは、土壌改良や炭素固定といった脱炭素技術を農業分野に応用するもので、持続可能な農業・食料生産システムの実現を目指しています。本取組は、親子での体験型学習を通じて、環境・農業・地域社会に関する知識を実践的に学ぶ機会を提供し、農と環境の未来を支える第一歩として、スポーツを通じ、広く社会への啓発にもつなげていきます。
取組継続年数	3年目

2.該当するSDGs目標・ターゲット	3.目標に対する達成状況、実績
 <p>親子での体験型学習を通じて、環境・農業・地域社会に関する知識を実践的に学ぶ機会を提供。</p> <p>【ターゲット:】 4.7 持続可能な開発に必要な知識と技能をすべての人が習得できるようにする</p>	<p>清水エスパルスのホームスタジアムIAIスタジアム日本平の花壇の一角に施肥及びガゼニアの苗の植栽を行い、多くのサポーター(親子含む)に参加していただきました。</p> 
その他関連するSDGs目標	4.取組が開始されたきっかけ・課題意識
    	<p>(株)エスパルスとの連携は、地域のスポーツ文化と農業・環境保全を結びつける考えが一致したことがきっかけです。(株)エスパルスの考える『スタジアムを「地域の学びと交流の場」とする』ことに共感したほか、(株)TOWINGの「宙炭」の技術を、県内の生産現場(農業)に活用することで持続可能な農業を実現するべく本取組を開始しました。 家庭でできるガーデニングに着目し、各団体の協力を得ながらスポーツを絡めた脱炭素アクションの普及に努めています。</p>

5.取組イメージ

『S-PULSE SDGs ACTION 地域と共に未来につなぐ』をキャッチフレーズとし、積極的にSDGsに取り組んでいる(株)エスパルスと、「サステナブルな次世代農業を起点とする超循環社会を実現する」をミッションに掲げ、人工土壌の技術「高機能ソイル技術」を活用した、高機能バイオ炭「宙炭」を開発・販売する(株)TOWINGの2団体を静岡県信連がコーディネートし、環境配慮型農業(ガーデニング)の実現に向けて取り組んでいます。今年度は、清水エスパルスサポーターの方々に植栽活動に協力いただき、地域一体となって課題解決へ取り組みました。



実際の様子



6.応募した取組の今後の計画・展開	7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くのサポーターの方が参加できるように「スポーツ×農業×環境」の取組を企画・実践していきます。 ・環境にやさしい農業を実現するため、JA・生産者と連携し、(株)TOWINGの「宙炭」の施肥等、栽培実証試験を進めていきます。 ・もみ殻・茶殻・残渣等が「宙炭」の原料となるため、未利用のバイオマス処理の課題を抱える取引先とのマッチングを進め資源循環に貢献します。 	<p>【地域の絆・結びつきを強化】 スポーツクラブと農業関連団体が連携することで、地域住民と企業・団体の結びつきが深まるほか、ファンやサポーターとの協働イベントはクラブへの愛着と地域へのシビックプライドを育てる土壌となります。</p> <p>【親子の体験型学習の場を提供】 ガーデニングなどの農作業を通じて、農業・環境について親子で楽しく学ぶことができます。スタジアム見学やスポーツ観戦と組み合わせることで、子どもたちにとって魅力的かつ有意義な学びの機会となります。</p> <p>【持続可能な農業技術の普及】 高機能バイオ炭「宙炭(そらたん)」の施肥など、脱炭素技術を体感する場としての役割も果たします。環境保全と農業生産の両立に向けたテクノロジーを身近に感じることで、未来志向の理解が深まります。</p> <p>【スポーツのプラットフォームによる社会的啓発】 スタジアムやスポーツイベントを活用することで、農業・環境問題を広く社会に発信できます。また、農業のイメージ刷新や若者層へのアプローチにも効果が期待されます。</p>

地域と学校の接続、「何にもしない合宿」!

静岡大学地域教育サークル「ブギウギ」× 川原自治会連合会 × 川原地区社会福祉協議会 × 地域学校協働活動推進員 × 一般社団法人ルミナス

1.取組概要	静岡大学地域教育サークル「ブギウギ」のメンバーの大学生が中心で、川原地区の自治会館である「かわはら会館」を毎月1回定期的に開放し、小学生を対象で「遊んで・寝て・遊んで・帰るだけ」のお泊り会を実施しています。運営が特別なプログラムを企画することなく、あえて大人が「何にもしない」ことで子どもたちが自ら考え、行動する機会が得られます。それにより、子どもは創造性や社会性、問題解決能力やコミュニケーション能力が育まれます。
取組継続年数	1年目

2.該当するSDGs目標・ターゲット	3.目標に対する達成状況、実績
 <p>「社会性」や「コミュニケーション能力」を、異なる学年の子どもや多世代の地域の人と関わることで育んでいます。地域に顔見知りが増えることで安心感のある「地元愛」の醸成を目指しています。</p> <p>【ターゲット:】 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p>	<p>社会教育に必要な要素である「日常的・継続的・定期的」な活動を目指して、運営が無理なく続けられる活動を安定して年に10回程度開催することを目指しています。2024年1月に開催を構想し、2025年7月に第1回を開催しました。第1回では子どもが64人参加しました。今後も引き続き毎月ペースで継続的に活動を行い、子どもが安心して通える場所を作ります。</p>
その他関連するSDGs目標	4.取組が開始されたきっかけ・課題意識
   	<p>社会教育は子どもの「社会性」や「コミュニケーション能力」を育てる良い機会ですが、単発のイベントになりがちなのが課題だと感じていました。単発では「楽しかった」だけで感想が終わってしまい、社会教育の意義を達成できません。そこで、運営のやることを減らした何にもしない合宿で「日常的・継続的・定期的」な社会教育を実現したいという思いからスタートしました。</p>

5.取組イメージ

川原地区社会福祉協議会および地域学校協働活動推進員を通して川原小学校にチラシを配布してもらい参加者を募ります。



川原地区関係図



6.応募した取組の今後の計画・展開	7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)
<p>静岡市での初めての活動は実現しました。「何にもしない合宿」は一見、SDGsの具体的な目標達成に遠い活動に見えるかもしれませんが、子ども達の心身の健康、非認知能力の育成、地域コミュニティの醸成という、SDGs根幹の「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に大きな意義を持つと言えます。また、何にもしない合宿で子どもと地域の人が知り合い、声をかけてくれる大人の存在が地域に対する安心感に繋がり、それは防災や防犯面でもメリットになります。そうして、地元愛が育まれる活動を展開していきます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生主体の社会教育活動 大学生が社会教育活動をするうえで「地域からの信頼が足りない」、「就活や卒業で活動の継続力がない」という課題。これらを、地区社協、地域の大人と連携して活動を行うことで解決。また、サークルを作ることによって代替わりによる継続力の確保で解決。課題に向き合い実現に取り組む仕組みづくりが新しい。 2. 静岡市初の何にもしない合宿 何にもしない合宿は裾野市で始まった社会教育活動。徐々に全国に広がっているこの活動を静岡市で初めて行う新規性。 3. 日常的・継続的・定期的な社会教育活動 単発のイベントにならず継続的な社会教育が提供できるように場を開くことに注力している点。社会的な意図に囚われず、あくまでも子どもの日常の延長であるということ徹底する挑戦。

2

4

11

13

15

17

3

4

8

11

17

はたらいて、笑顔の輪をつくろう～ Well-beingな環境づくり～

静岡市立清水桜が丘高等学校 × バルテックス静岡 × 株式会社LIFEAT. × 農園ナランハ

<p>1.取組概要</p>	<p>静岡市立清水桜が丘高等学校商業科3年生「課題研究(地域連携クラス)」では、地域企業の皆様との様々な連携活動を通して身近な社会課題に向き合い学びを進めています。今回、ジェンダーギャップ指数が経済部門で42位という静岡県の課題を知り、改めて男女賃金格差や社会雇用など社会の現状の調査研究を進めていく中で、働く女性に注目しながら「働く女性にご褒美を」というテーマを掲げ活動を始めていき、美容と健康を意識したジェラートアイスを開発しました。その過程において、「働く女性」にターゲットを置いたことにより性別を問わず「すべての人が活躍できる社会づくりの必要性」について健康・環境・ジェンダーという視点でバルテックス静岡、株式会社LIFEAT. 農園ナランハの皆様のご協力のもと、理論と実践の往還を通じて活動を進めています。</p>		
<p>取組継続年数</p>	<p>2年目</p>		
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>		
<p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> <p>性別を問わず、すべての人が平等に活躍できる機会を提供する社会づくりに貢献することを目的としてジェラートアイスの販売を通して啓蒙活動をしている。</p>	<p>本活動では農園ナランハにも協力していただき、育てている野菜等を使用してジェラートアイス(カボチャ・夏みかん)を販売しています。本校文化祭や各種イベント参加時には、アイス販売と同時に調査研究の課題である「ジェンダーギャップ指数」についての現状、分析等のパネルディスカッションを実施することで多くの地域住民に現状を伝えることができています。(文化祭での広告配布 来場者数約1,500人)(県民の日イベントにてパネルディスカッション実施)</p>		
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>		
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>11 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>令和6年度よりバルテックス静岡、LIFEAT.と連携を開始しスポーツ栄養学の観点から選手の「食」に注目、本校運動部の身体計測を行い、得られたデータに基づき成長期の身体づくりについて学びました。また同時に食品ロス問題にも着目し、地域の規格外野菜を活用しアスリート弁当の開発を実施しました。今年度はその学びの成果を活用した上で、新たな地域課題に向き合い調査研究、商品開発等の実践活動を重ねることで、その課題を地域に発信し、「すべての人が笑顔で働ける環境づくり」のきっかけの一助になればと活動しています。</p>		

5.取組イメージ



6.応募した取組の今後の計画・展開

- ・完成した商品の一般販売を9月に予定しています。この販売機会を通して活動の取組を多くの市民の皆様へ届けることで、地元の課題に関心を持ってもらうきっかけとしていきます。
- ・学校と地域・企業が連携をすることで、地域とともにある学校を目指し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。
- ・SDGsの目標を校内で実施される様々な取組の企画の糸口とし、主体的に活動を行う人材を育成していきます。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

- ・地域をまるごと学びの場として捉え、社会で起きている事象について調査研究を進め、新たな課題等を発見し、自ら感じ考えることで、未来ある若者が将来地元静岡市で活躍できる「未来の静岡の創り手」となることを目標としています。
- ・多様な人々と協働することで、高校生が改めて地域に目を向け、社会の一員として考えるきっかけとしていきます。
- ・地元プロスポーツチームと連携することで、スポーツをきっかけとした切り口から多くの市民と出会うきっかけとなるため、イベントや試合時には積極的に啓蒙活動に取り組んでいきます。
- ・性別による経済格差をなくし、性別を問わず活躍する場を自由に選択できる社会づくりを目指す。

～途上国・新興国での水とスポーツを結び付けた社会貢献活動～

ヤマハ発動機株式会社 × 静岡ブルーレヴズ株式会社

<p>1.取組概要</p>	<p>ヤマハ発動機は、安全な水へのアクセスが困難な人々に対して、清潔で安心な水を届けることで生活の改善に貢献することを目指し、「クリーンウォーター事業」に取り組んでいます。「水が変われば、暮らしが変わる」を活動理念に掲げ、当社が開発した浄水装置「ヤマハクリーンウォーターシステム(YCW)」の導入を通じて、社会課題の解決に取り組んでいます。「スポーツの後に、清潔な水を思いきり飲む環境づくり」を、同事業の活動理念のアプローチの一つと位置づけ、静岡ブルーレヴズと社会貢献活動に取り組んでいます。ラグビーのホストゲームで、来場者に対し使用しなくなったスポーツ用品の寄付を呼びかけ、これらをYCW設置地域に届ける活動です。さらに、寄贈に合わせて現地の子どもたちを対象にラグビー教室を開催しています。ラグビー教室では、寄贈されたスポーツ用品を実際に使用し、ラグビーで体を動かした後、清潔な水を飲む体験を通じて、「水」と「健康」の繋がりを実感してもらうことを目的とし、地域社会の活性化や持続的な発展にも貢献することが期待されます。</p>		
<p>取組継続年数</p>	<p>3年目</p>		
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>		
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p> <p>【ターゲット:】 6.1 2030年までに、全ての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する。</p>	<p>・2024年12月時点で、合計1,410点のスポーツ用品を寄附いただきました。 ・これまでにケニア共和国Homabay郡のYCW2基が設置されている周辺の4つの村に851点のウェア、シューズ、ボール等のスポーツ用品を寄贈しました。 ・各村でラグビー教室を行い、子ども達はYCWで浄化された水を給水し、水衛生の大切さを実感しています。将来はプロのラグビー選手になりたいと夢を語ってくれた子もいます。</p>		
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>		
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>16 平和と正義をすべての人に</p> <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>・ヤマハ発動機の「クリーンウォーター事業」と静岡ブルーレヴズのSDGsプロジェクト「SCRUM Action」が連携することで、双方の強みを活かし取組に進化することを目指しました。 ・継続した取り組みとするために、国内の自治体や企業との連携の必要性を探索・検討しています。</p>		

5.取組イメージ

- ①静岡ブルーレヴズのホストゲームで、来場者に対して使われなくなったスポーツ用品の寄付を呼びかけます。
- ②寄附いただいたスポーツ用品は、ケニア共和国のYCWが導入された地区の現地の子どもたちに寄贈されます。
- ③子どもたちはそれぞれのスポーツ用品を使用して、ラグビー教室に参加し、スポーツを楽しみます。
- ④子どもたちはラグビーで汗を流した後、YCWで浄化された清潔な飲料水を飲用し、水と健康の繋がりを感ずることが出来ます。
- ⑤次回の寄付活動の際、現地での寄贈やラグビー教室を実施した様子を来場者に報告することで、継続的な支援を呼び掛けています。



6.応募した取組の今後の計画・展開

■今後の計画
・年間1, 2回、継続した活動を実施します。
・県内の公立学校で、当社と静岡ブルーレヴズとが共同し、水とスポーツを結び付けた社会貢献活動の取組を紹介する授業を実施します。

■今後の展開 (検討中)
これまで継続した取組を行っているケニア共和国にて、現地でのYAMAHAラグビーカップの開催を目指しています。あるいは、他の企業やジャパンラグビーリーグワンの連携を想定し、多岐にわたる展開を検討したいと考えています。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

ユニーク性:強い結びつきのある「スポーツ」と「水」を掛け合わせることで、スポーツを楽しんだ後に、安心して水分補給できる環境を提供し、水の大切さを啓発するとともに、健康の維持・増進にも貢献しています。このような視点からのアプローチはスポーツを通じた社会貢献として独自性があります。

連携性①:一つのスポーツ団体だけでは難しい途上国、新興国への支援も、ヤマハ発動機の取り組み「クリーンウォーター事業」と連携することで、寄贈活動を実現しています。

連携性②:寄贈の様子を写真や動画として記録し、また現地の子ども達のビデオレターを、新たなスポーツ用品の寄付活動時に賛同者へ報告し、情報をフィードバックしています。

新規性:スポーツ用品の寄贈に加え、現地での交流や教育的な取り組みを組み合わせることで、単なる物資支援にとどまらない、心のつながりを生む新しい社会貢献モデルを築いています。

持続性:日本国内では処分せざるを得なかった、まだ使用可能なスポーツ用品を、途上国や新興国の地方部へ寄贈することで、資源の有効活用と支援の持続性を両立しています。

地域企業の未利用特許を活かした商品開発支援

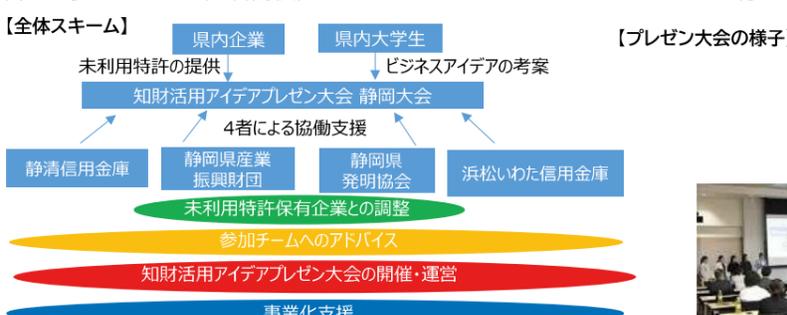
静岡信用金庫 × 静岡県産業振興財団 × 静岡県発明協会 × 浜松いわた信用金庫

<p>1.取組概要</p>	<p>特許庁の調査によると国内特許権の約半数が未利用となっており、地域の中小企業が未利用特許を活用することが期待されています。「地域企業の新商品開発」と「地元学生の学び」を主目的とし、未利用特許を活用した大学生の柔軟な発想によるビジネスアイデアをコンテスト形式で競う「知財活用アイデアプレゼン大会」を2015年から毎年実施しています。</p>
<p>取組継続年数</p>	<p>10年目</p>
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>
<p> 未利用特許活用によるイノベーションを促進し、地域企業の活性化および持続的な成長を目指しています。</p> <p>【ターゲット:】9.5 2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。</p>	<p>これまで静岡大学、静岡県立大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学、常葉大学より延べ70チームが参加しました。2019年大会で最優秀賞を受賞した静岡県立大学のチームが考案した「ふりそ〜る」(形状記憶素材を活用した靴擦れ防止インソール)は、当該特許を保有する株式会社美浜工業(浜松市)と商品化に向けた検討を行い、2021年3月に商品化されました。</p>
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>4.取組が開始されたきっかけ・課題意識</p>
<p>  </p>	<p>当金庫において知財活用支援事業の検討を進める中、2014年に西武信金主催「知財アイデアプレゼン大会全国大会」を視察し、同席した静岡県産業振興財団とともに静岡県内で同様の大会開催の企画を進めるに至り、県内の大学、静岡県発明協会、県内の他信金に呼びかけ協働して行うことになりました。</p>

5.取組イメージ

未利用特許を題材に県内大学生がビジネスアイデアを考案する「知財活用アイデアプレゼン大会」を実施。県内大学生がチーム(5名前後)でビジネスアイデアのプレゼンテーションを行い、最優秀賞と優秀賞を選考。

【全体スキーム】



【プレゼン大会の様子】



<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p>	<p>7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)</p>
<p>本取組みは、地域企業の活性化、地元学生のチャレンジ精神醸成、社会とのコミュニケーションの場を提供する人材育成といった面で地域貢献に資する事業であることから、本大会の企画・運営を今後も継続していきます。また、学生が考案したビジネスアイデアは、財団を通じて県内企業へ周知され、特許所有企業とのマッチングを推進するなど、商品化・事業化に向けた支援を行っています。</p>	<p>1.知財活用によるイノベーション促進 事業環境が大きく変化する時代において、未利用特許を活用し新たな商品・サービスを生み出すことは、企業の生産性向上や新たな市場の創出につながり、企業の持続的成長が期待できます。</p> <p>2.地元学生のチャレンジ精神醸成 未利用特許という新たな切り口での学びにチャレンジし社会とのコミュニケーションを図る場を学生に提供することで、人材育成に貢献します。</p> <p>3.協働支援の仕組み 大会開催に向け以下の流れで協働して支援を行っています。 ①財団・協会が特許を選定②県内大学を招きキックオフミーティングを開催③参加チームへの伴走支援を実施④大会開催⑤エントリーされたアイデア全てについて事業化の可能性を改めて検討しフォローアップ</p>

リフィル行動で、使い捨て容器を減らそう

カチカチ鳥(Refill静岡) × Refill Japan × マイ容器・給水スポット登録店 × 静岡市

<p>1.取組概要</p>	<p>カチカチ鳥では、中島海岸、安倍川河川敷の清掃活動を、毎月各1回ずつ行っています。回収したものは種類別に分別し、計量をしています。海洋を漂流するプラスチックを少しでも減らすため、漂着物を回収すると同時に、生活者として日々の暮らしで使い捨て容器を減らすため、Refill Japanの活動に参加し、Refill静岡の事務局として、静岡県内のマイ容器・給水スポットの登録、リフィル行動の普及を行っています。</p>
<p>取組継続年数</p>	<p>Refill Japanに登録してから2年目(カチカチ鳥の活動は4年目)</p>
<p>2.該当するSDGs目標・ターゲット</p>	<p>3.目標に対する達成状況、実績</p>
<p> 使い捨て容器の使い方を、市民の側から考え行動するキッカケをつくり、廃棄物をできるかぎり減らします。マイ容器・給水スポット協力店舗や、公共給水スポットが増えることで、日々の暮らしの中で利用したり、観光を目的に訪れる人の目にとまり、地域が活性化される「まちづくり」の要素も含まれます。</p>	<p>給水スポット 公共:29件、協力店舗:17件 マイ容器スポット:4件</p> <p>清掃活動による実績(2021年2月~2025年6月) 総重量:4779kg(うちペットボトル10293本 418kg) 延べ参加者人数:3509人</p>
<p>【ターゲット:】11.6 2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。</p>	<p>4.取組が開始されたきっかけ・課題意識</p> <p>毎月行っている1時間ほどの清掃活動で、特に海岸で様々な漂着物を回収するなかで、多いときには400本以上あるペットボトルの数が圧倒的に多すぎた。このペットボトルはどこから流れてくるのか、どうすれば少なくできるのか、と考えてみると、ペットボトルをはじめとした使い捨て容器を、日々の暮らしの中で、わたしたち生活者が使い方を考えて行動に移すことが大切なことだと、あらためて気づきました。</p>
<p>その他関連するSDGs目標</p>	<p>そこで調べた結果、マイ容器、給水スポットをマッピングするプラットフォームを運営している、Refill Japanの活動に共感し、地域リフィルがなかった静岡市の事務局としてRefill静岡に登録しました。</p>
<p>   </p>	

5.取組イメージ

- はじまりは清掃活動
中島海岸での清掃活動には毎回30人ほどの参加者があります。主に開催日はSNSで告知をし、申込み不要で当日集まった人たちで清掃活動を行います。回収したものは、数と重量を計測しています。清掃活動のあとはカフェタイムを設けて、参加者で情報交換を行っています。その場でも、Refillジャグで水を提供したり、コーヒーやお茶をふるまいます。マイカップまたはリユースカップを使用し、楽しくリフィル行動を実践しています。
- Refill Japan Refill静岡の活動
マイ容器、給水スポットをマッピングするプラットフォームを展開しているRefill Japanの地域リフィルとして、カチカチ鳥が事務局となりRefill静岡に登録しました。公共給水スポットは静岡市環境局ゴミ減量推進課の協力を得て、公園の登録を進めています。リフィル行動に賛同した民間の事業所や食品を扱う店舗、コワーキングスペースなどに働きかけて、マイ容器、給水スポットの登録店を増やしています。

静岡市環境局環境共生課「静岡市環境総合ウェブサイト」お楽しみ企画「しぜんたんけんてちょう」に、Refill Japanの給水・マイ容器マップが組み込まれ、相互に協力して情報発信をしています。



<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p>	<p>7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)</p>
<p>● 静岡県下でマイ容器、給水スポットを、年間50ヶ所の登録を目標とする。スポット登録を静岡県内に展開するため、静岡市外で協力できるパートナーの開拓をしていきます。利用者がリフィルスポットを探すと、実際に活用することが楽しくなるように、情報発信を工夫していきます。</p> <p>● Refill Japanでは飲食をともなうイベントにおいて、リユース食器の普及にも力を入れているため、リユース食器を取り入れたイベントの開催を、Refill静岡として企画を考えていきます。リフィル行動をあたりまえにしていきたいです。</p> <p>● 固定式ボトル給水器を公共の場に設置するため、行政に働きかけていきます。給水された量を記録できれば、ペットボトル削減量が可視化され、CO2削減量の換算を行うことができます。静岡市が、気軽においしい水を汲めるマチとして、有効なシティープロモーションができます。</p> <p>● 清掃活動とリフィル行動と地域の水資源を結びつけた、環境教育の機会を企画します。森林から海へ流れる豊かな水資源のある静岡を実感する企画を行い、多様な価値観で環境をとらえる人を増やしていきたいです。</p>	<p>「Refill(リフィル)」とは「再び詰める」こと</p> <p>● リフィル行動は、市民ひとりひとりが、すぐに無理なく始められることができます。暮らしやすいマチを、市民自ら日々の行動のなかで、つくっていくことができます。リフィル行動をする人々が静岡のまちを彩る風景となること、地域の大きな価値になると考えています。</p> <p>● 近年の猛暑対策として、水を汲めるスポットにアクセスしやすい環境を整備することは、必須と考えられます。既存の設備を有効に活用しながら、あらたな給水スポットの整備を静岡市とともに進めたいです。</p> <p>● リフィルスポットを探すことで、景色や居心地の良い公園をみつけたら、おいしいものが食べられたり、おみやげ物を購入できるお店をみつけるキッカケとなる。「まちづくり」の効果も期待できます。</p> <p>Refill Japanウェブサイトより</p> 

地域共創～呉服町から発信する魅力ある静岡市！

静岡銀行呉服町エリア(呉服町、新通、しずはた) × 地域共創パートナー

1.取組概要	本企画は、SDGsの体現および静岡市内賑わい創出の一環として、地域共創パートナー(行政・商店街・取引先企業・学生等)と連携しまちおこしイベント等の企画・運営を行うものです。特に市内若年層の人口減少が顕著な静岡市の「魅力発信」や「まちづくり」を地域課題として捉え、業務上「産学公民」と連携先が多岐にわたる金融機関としての強みを活かし、地域のリーディングカンパニーとして正面から向き合うことに舵を切りました。主な連携先として、静岡市、呉服町商店街、呉服町エリア取引先企業(メディア、飲食、まちづくり等)、大学生(静岡大学、常葉大学)等を巻き込み、以下に記載する様々な活動を展開してきました。今年度以降も地域に根差した金融機関としての使命を全うすべく、本取組を展開する予定です。	
取組継続年数	2年目	
2.該当するSDGs目標・ターゲット	 地域共創パートナーと共にまちの賑わい創出に貢献し、静岡市の持続的な発展を後押しします。	3.目標に対する達成状況、実績
その他関連するSDGs目標	  	【昨年度の連携実績】 ①「おまちゼミナール」 テーマ:めざせ銀行員！窓口業務を体験しよう！ 参加者:32名(対象:7~11歳) 意見:普段ふれることのできない仕事の体験や社会の仕組みを理解できた等の感想がありました。 ②「駿府城夏まつり2024」 テーマ:キャッシュレス〜食べて・休んで・もらおう〜 市内若年層の人口流出阻止に向け、大学生からの意見を参考にした企画を展開。また、市内キャッシュレス普及率向上にも貢献。2日間で1,419人がブースに登場しました。 ③「SDGs Runway SHIZUOKA 2025」 テーマ:若年層へのSDGs教育(金融経済教育、伝統工芸の伝承)、静岡市の伝統工芸を来場者へPR 体験人数:561名 教育面に重きを置いたコンセプトが大変好評でした。
4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識		
しずおかフィナンシャルグループの第一次中期経営計画では、「すべてのステークホルダーがサステナブルかつ幸福度が高まっている状態」を目指し、「企業価値の向上」×「社会価値の創造」をテーマに社会課題解決に向けた活動を掲げています。地域課題である、市内若年層の人口減少が顕著な静岡市の「魅力発信」や「まちづくり」への関与は、地域・当グループにとって重要な課題であるとの共通認識であり、行政・商店街・学校等、地域のステークホルダーが集積しているエリア特性を活かし、取組の中心となることを決意したことがきっかけです。		

5.取組イメージ

①「おまちゼミナール」 テーマ:「めざせ銀行員！窓口業務を体験しよう！」(未来世代への質の高い教育) パートナー:商店街 対象者:7歳~11歳 参加者数16名(親子で参加)
銀行の仕事体験(両替体験、小切手の発行、施設見学など)
・呉服町商店街が実施する「おまちゼミナール」の1講座として、2024年より取組を開始。
普段知ることのできない銀行の裏側や業務内容を開放することで、商店街や地域企業の魅力を発信し、若者の地元定着、商店街のにぎわい創出を目標とするものです。

②「駿府城夏まつり2024」 テーマ:「キャッシュレス〜食べて・休んで・もらおう〜」(未来世代若手世代) パートナー:静岡市、取引先企業9社、地元大学生 来場者数:1,419人
・静岡市、取引先企業9社と連携し、地元大学生の意見を取り入れたブースを運営。
また、物販時にキャッシュレス決済を推奨することで市内のキャッシュレス決済普及率向上、若年層向けの魅力あるまちづくりに繋げていくものです。(参考 キャッシュレス普及率 全国:32%、静岡県:25%)

③「SDGs Runway SHIZUOKA 2025」 テーマ:「未来世代へのSDGs教育(金融経済教育)を通じたサステナブルな地域社会の創出」 パートナー:創造舎(駿府の工房 匠宿)、静岡市 体験者数:561名
・伝統工芸体験施設である匠宿様と連携したブース出展。金融経済教育(クイズ形式)や発電体験などを提供
・また、来場者と協同し伝統工芸の「茶染めタペストリー(お茶の残渣を再利用)」や「竹細工」のPRを実施。
・伝統文化を静岡県内外の若者に伝承し、静岡の魅力を知ってもらい将来的な居住者の増加を目指したものです。



6.応募した取組の今後の計画・展開

先述の取組は昨年度に実施したもので、今年度は既に以下の開催実績があります。

①『企業対抗ピンポン運動会』 パートナー:静岡市、静岡ジェード、取引先企業 取組効果:企業間コミュニケーションの活性化、静岡中心市街地・オクシズ観光の地域おこしに貢献。

②『ワインセミナー&異業種交流会』 パートナー:ヴィノスやまざき、取引先企業24名 取組効果:地域企業の若手従業員間のコミュニケーションの活性化、全世界共通テーマであるワインの知識習得に貢献。

③『DXセミナー』 パートナー:NTT西日本、取引先企業 取組効果:地域企業の企業価値向上・DXの理解・浸透に貢献。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

・社会課題を解決するためには短期的な成果ではなく、地域のステークホルダー(行政・商店街・取引先企業・学生等)を巻き込み、中長期的な目線で課題解決に取り組むことが必要である中、地域のリーディングカンパニーとして「社会価値の創造」に正面から向き合った本活動命を果たすことこそが、静岡市のまちづくりや賑わい創出に繋がるものと考えます。
・2025年度は「異業種交流」や「地域のつながり」を題材に、イベント出展や開催を計画しており、引き続き時代とともに変わる社会課題の解決策に中心として取り組み、静岡市のまちづくりやSDGs体現に向け積極的な活動を実施します。
・以上により、本事例は地域金融機関として市内若年層の人口減少を課題と捉え、まちづくりや賑わい創出に関連する「挑戦性」や「新規性」を兼ね備えた活動であると考え、今後より多くのパートナーと連携し静岡市を中心に持続可能な社会を実現する活動を行ってまいります。



公民連携で地域で熱中症を減らす取組への挑戦

主催団体(取組主幹団体):静岡市GX推進課、大塚製薬株式会社 参加団体:イオンリテール株式会社中部カンパニー、一般財団法人静岡県サッカー協会中部支部、一般財団法人静岡市薬剤師会、ウエルシア薬局株式会社東海支社、株式会社エスパルス、株式会社森林堂薬局、株式会社テレビ静岡、株式会社VELTEXスポーツエンタープライズ、コジマビックカメラ静岡店、静岡県経済産業協同組合連合会、静岡市消防局、静岡市(健康づくり推進課、教育委員会)、静岡市農業協同組合、静岡鉄道株式会社、清水農業協同組合、清水薬剤師会、鈴与商事株式会社、独立行政法人環境再生保全機構、マックスバリュ東海株式会社

1.取組概要	2025年3月に静岡市GX推進課と大塚製薬共催で熱中症対策会議を開催しました。上記の企業・団体が参加し効果的な取組等について検討し、地域において行政・団体が一体となって熱中症対策をより一層強化し推進していく仕組みづくりの構築を行っています。数値目標を設定し、目標達成のために参加団体が連携して熱中症を減らす取組を実施しています。	
取組継続年数	1年目	
2.該当するSDGs目標・ターゲット	 気候変動への適応策として「熱中症対策」にフォーカスし、公民連携で熱中症を減らす取組を実施しています。	3.目標に対する達成状況、実績
【ターゲット:】 13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。	取組目標を下記の3つに設定し、参加団体と共有をしています。 ①参加団体と連携した地域での熱中症啓発強化 ②熱中症のリスクがある65歳以上の高齢者への啓発強化 ③クーリングシェルター開設数増 ①:市中心部大型ビジョン、駅、スーパー、ドラッグストア、家電量販店、農産物直売所等での動画放映やポスター・リーフレットの掲示・配布を実施。②:農業従事者や高齢者へのリーフレット配布や声掛けを実施。③:すでに281施設で開設(去年より21施設増8/5時点)をしており、市民が外出中に危険な暑さから逃れ、休息をとる場所を増やし、提供しています。また、本取組がニュース放映に繋がりを、多方面への拡散に繋がっています。	
その他関連するSDGs目標	 	4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識
気候変動の影響により日本の平均気温は上昇しており、近年、熱中症の救急搬送者数や死者数が増加しています。一方で、熱中症は「正しい知識」を持っていれば防ぐことが出来ます。熱中症を個人の問題ではなく、社会問題として捉え、公民連携で熱中症を減らす多面的な対策を講じることが重要であると考え、今回の取組をスタートさせました。		

5.取組イメージ

取組主幹団体

静岡市 GX推進課 × Otsuka

行政熱中症担当課 啓発ツール・資材作成提供
各団体との調整・提案 各団体との調整・提案
取りまとめ

活動賛同→21団体
(※掲載していない団体も含む)

番号	団体名	世代	活動内容
1	イオンリテール株式会社 中部カンパニー	全世代	啓発動画放映協力、クーリングシェルター開設協力及び情報発信
2	一般財団法人静岡県サッカー協会 中部支部	スポーツ	熱中症対策アンバサダー講座受講、啓発動画放映協力
3	一般社団法人 静岡市薬剤師会	高齢者	高齢者へ声掛け、熱中症資材の掲示協力、熱中症対策アンバサダー講座受講
4	ウエルシア薬局株式会社 東海支社	全世代	ポスター掲示・啓発動画放映協力、クーリングシェルター開設協力及び情報発信
5	株式会社 エスパルス	スポーツ	熱中症対策アンバサダー講座受講
6	株式会社 森林堂薬局	全世代	啓発動画放映協力、クーリングシェルター開設協力及び情報発信、熱中症対策アンバサダー講座受講
7	株式会社 テレビ静岡	全世代	熱中症ニュース放映、熱中症に関するニュースをウェブ媒体に掲載
8	株式会社 VELTEXスポーツエンタープライズ	スポーツ	ポスター・啓発動画制作協力、イベント時呼びかけ協力
9	コジマビックカメラ静岡店	全世代	啓発動画放映協力、クーリングシェルター開設協力及び情報発信、熱中症対策アンバサダー講座受講
10	静岡県経済産業協同組合連合会	農業従事者	熱中症資材の掲示協力、熱中症対策アンバサダー講座受講
11	静岡市消防局	救急者	熱中症対策アンバサダー講座受講
12	静岡市健康づくり推進課	全世代	啓発資材を活用した啓発
13	静岡市教育委員会	子ども	熱中症対策アンバサダー講座受講、市内小中学校ポスター啓発協力
14	静岡市農業共同組合	農業従事者	熱中症資材の掲示協力、熱中症対策アンバサダー講座受講
15	静岡鉄道株式会社	全世代	ポスター・啓発動画放映協力
16	清水農業協同組合	農業従事者	熱中症資材の掲示協力、熱中症対策アンバサダー講座受講
17	清水薬剤師会	高齢者	高齢者へ声掛け、熱中症資材の掲示協力、熱中症対策アンバサダー講座受講
18	鈴与商事 株式会社	救急者	熱中症対策アンバサダー講座受講
19	マックスバリュ東海 株式会社	全世代	啓発動画放映協力、クーリングシェルター開設協力及び情報発信、熱中症対策アンバサダー講座受講
20	独立行政法人 環境再生保全機構		熱中症に関する情報提供(会議参加団体向け)

6.応募した取組の今後の計画・展開

継続した取組とし、年次毎に参加団体を増やし拡大していきます。
初年度である今年は各参加団体の個別の熱中症啓発を行い、市民の熱中症に対するタッチポイントを増やす活動を優先的に行っています。
将来的には単独では実現できない新たな発想を基にした革新的な啓発事業の創出を目指して活動をしていきます。

7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

1. 様々な業種の団体との連携
熱中症はこどもから高齢者まで幅広い年齢層に向けた啓発が重要です。抜け漏れのない多面的な啓発のため、多くの団体に参加いただき活動を推進しています。
2. 多くの人に届く包括的、且つ細部にわたる啓発活動の両立
社会全体に波及する取組とするため、熱中症対策の啓発動画とポスター等を作成し、広域的な熱中症対策の推進活動を実施する一方で、賛同いただいた皆様とも連携しながら、各団体の地道な啓発活動を並行して行い、より広く波及、定着できる仕組みの構築に挑戦しています。

 けやきプラザ 大型ビジョン  セノバ地下通路 サイネージ

3. 情報拡散(ニュース化)と取組拡大
取組をテレビ静岡番組内でのニュース放映、web媒体「wasabee」での熱中症対策ニュースの情報掲載をしていただき、取組の拡散をすることが出来ました。情報拡散が進むことにより、市民への啓発のみならず多くの方から本取組の理解を得て、次年度以降の参加団体の拡大に繋がっていくものと考えています。

美しい松原の風景を後世に 三保松原保全啓発

(株)エスパルス × 静岡市三保松原文化創造センター みほしるべ
× (株)故紙セントートヨタ

1.取組概要	清水エスパルスのクラブハウスは世界文化遺産 富士山の構成資産の三保松原におけるバッファゾーンに位置します。過去にもユニフォームに三保松原デザインを採用したり、三保松原で選手のプロモーション撮影などを行い魅力を発信するとともに、保全活動に選手スタッフが参加してきました。美しい松原の風景を後世に残し、防災林としての松原を維持するためには、より多くの松葉かきボランティアが必要です。クラブの発信力、ファン・コミュニティの強みを活かして三保松原を守るためのアクションを地元企業、行政、学校などと連携し広めています。
取組継続年数	3年目

2.該当するSDGs目標・ターゲット	3.目標に対する達成状況、実績
 <p>美しい松原の風景と防風林としての松原を維持するためには、①マツ材線虫病から守る、②遷移を止める、③マツの世代交代を促すことが必要であり、人の手による様々な保全の取り組みが必要です。</p> <p>【ターゲット：】 15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。</p>	<p>保全イベント参加者数 延べ約650名(3回実施) 三保松原保全キャンペーン参加者数 延べ約750名 親子学習イベント参加者数 70名(2回実施) エスパルスホームゲームにおける啓発活動 3試合実施(ブース出展)</p>
4.取組が開始されたきっかけ・課題意識	
<p>2023年に三保松原は富士山世界文化遺産登録10周年を迎えました。みほしるべでは年間約4,000人以上のボランティアを受け付けていましたが、海岸や松原の景観維持のためにはさらに多くの普及啓発が必要としていました。エスパルスも他のJクラブにはできない地域活動を模索していた中、両者に連携がスタートしました。</p>	

5.取組イメージ

エスパルスのファン・サポーターはもちろん、試合日にはビジタークラブのファンも観光で三保松原を多く訪れます。保全活動に興味を持っていただけるよう、マスコットや選手をデザインに採用したチラシ、クイズシートを作成しました。保全イベントに参加する選手やアカデミー選手へ事前に教育を行い地域文化についても継承しています。また、夏休み親子イベントや清水特別支援学校にて「クラブと三保松原の繋がり」についての講話&松葉かき体験を実施し、より多くの世代との関わりを広げています。



6.応募した取組の今後の計画・展開	7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)
<p>エスパルスの練習見学とセットで松葉かきを日常的に行ってもらえるような呼びかけ、アカデミーの交流試合等で来静するチームへ試合+観光/松葉かき体験を案内し清水ならではの学びを提供するなど行っていきたいと考えています。</p> <p>「長年地域に住んでいても松葉かきの必要性を知らなかった」という声もあり、身近にある世界遺産の保全について改めて地域住民に継続的に周知していく必要があります。また、将来を担う子どもたちへの教育活動も重要と考えます。 20・30代の参加者が少ないため、学生ボランティア団体や大学へのアプローチも行っていきます。</p> <p>また、集めた松葉のアップサイクルも今後地元企業・団体と連携して検討していきたいと考えています。</p>	<p>Jリーグ社会連携活動に取り組むエスパルスの情報発信力、求心力、行政やパートナー企業との連携発展力を活かした普及啓発活動</p> <p>キャンペーンを知ったきっかけは、約60%がクラブSNS、みほしるべSNSとチラシがそれぞれ約15%で、「クラブの発信で松葉かきを知った」「クラブとの連携だから参加した」「この活動で初めてボランティアに参加した」という意見も多くみられます。 三保半島はアクセスも悪く、ほとんどが松葉かきを目的に来訪しており、企画を通じた継続参加に繋がっています。</p> <p>また、複数回参加する中で、「この活動を通じて静岡市や三保松原がより好きになった」「地元の魅力を見直すきっかけになった」「静岡市へ再来訪するきっかけになった」といった意見もあり、『松葉かきボランティアへの参加』が保全以外にも『地域愛醸成』へ効果をもたらしていると考えられます。</p> <p>サポートいただいている企業様においても、毎回楽しく参加し、活動の輪が広がり新たな社員交流の機会となっているとお声をいただいております。</p>



すべての人に健康と福祉を

Be supporters! いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ『人生の先輩からのエール企画』 P12

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体	業種	サービス業
事業所・団体名	サントリーウエルネス 株式会社	所在地	東京都港区台場2丁目3-3
連携における役割	実施主体	業種	製造業
事業所・団体名	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ	所在地	東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル8F
連携における役割	実施主体	業種	団体
事業所・団体名	静岡県内 高齢者施設	所在地	静岡県内(静岡市、富士市)
連携における役割	実施協力	業種	サービス業

地域をもっと元気に!買い物支援を通じた健康・福祉の拠点づくり P13

事業所・団体名	◎ ウエルシア薬局 株式会社 東海支社	所在地	静岡市葵区三番町21-1
連携における役割	買物困難地域へ移動販売車を巡回し、販売を通じて地域住民の健康増進及び地域交流を促進し、健康で安心して住み続けられるまちづくりの実現等	業種	卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 駿河区地域福祉推進センター	所在地	静岡市駿河区南八幡町3-1
連携における役割	地域ニーズの把握、停留所の選定、活動の周知、地縁団体との連絡調整、利用者からの問い合わせ対応等	業種	団体
事業所・団体名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 清水区地域福祉推進センター	所在地	静岡市清水区宮代町1-1
連携における役割	地域ニーズの把握、停留所の選定、活動の周知、地縁団体との連絡調整、利用者からの問い合わせ対応等	業種	団体



質の高い教育をみんなに

SUSTAINABLE GARDEN PROJECT 2.0 P14

事業所・団体名	◎ 静岡県信用農業協同組合連合会 経営企画部	所在地	静岡市駿河区曲金3丁目8-1
連携における役割	企画運営・全体コーディネーター	業種	金融・保険業
事業所・団体名	株式会社 TOWING	所在地	愛知県名古屋市中千種区不老町1 国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学インキュベーション施設
連携における役割	「宙炭」、「宙苗」による脱炭素技術の提供	業種	製造業
事業所・団体名	株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	花壇管理・施設提供・普及PR活動	業種	団体

地域と学校の接続、「何にもしない合宿!」 P15

事業所・団体名	◎ 静岡大学地域教育サークル「ブギウギ」	所在地	静岡市駿河区大谷836
連携における役割	企画・運営	業種	団体
事業所・団体名	川原自治会連合会	所在地	静岡市駿河区下川原6-1-6
連携における役割	場の提供	業種	団体
事業所・団体名	川原地区社会福祉協議会	所在地	静岡市駿河区下川原6-1-6
連携における役割	広報活動	業種	団体
事業所・団体名	地域学校協働活動推進員	所在地	静岡市教育委員会管轄(清水区旭町6-8 清水庁舎8階)
連携における役割	子ども(学校)と地域の接続	業種	教育機関

◎ お問合せ代表

5 ジェンダー平等を実現しよう

はたらいて、笑顔の輪をつくらう～ Well-beingな環境づくり～ P16

事業所・団体名	◎ 株式会社 VELTEXスポーツエンタープライズ	所在地	静岡市葵区宮前町107
連携における役割	高校生への講話・新商品開発におけるイラスト監修・販売活動提供		業種 団体
事業所・団体名	株式会社 LIFEAT.	所在地	静岡市葵区長沼622
連携における役割	高校生への栄養指導・新商品開発における指導及び監修・販売活動補助		業種 製造業
事業所・団体名	農園ナランハ	所在地	静岡市駿河区中島163-2
連携における役割	高校生への講話・野菜の提供・販売活動補助		業種 農業

6 安全な水とトイレを世界中に

～途上国・新興国での水とスポーツを結び付けた社会貢献活動～ P17

事業所・団体名	◎ ヤマハ発動機 株式会社	所在地	静岡県磐田市新貝2500
連携における役割	ホストゲームで寄付していただいたスポーツ用品のYCW導入地域への輸送、現地寄贈イベントの開催、当社社員(静岡ブルーレヴズのOB)の派遣及びラグビー教室の開催		業種 製造業
事業所・団体名	静岡ブルーレヴズ 株式会社	所在地	静岡県磐田市今之浦3丁目8-8
連携における役割	ホストゲームにおける寄贈ブースの設置、ファンに対する情報発信		業種 サービス業

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

地域企業の未利用特許を活かした商品開発支援 P18

事業所・団体名	◎ 静岡信用金庫	所在地	静岡市葵区昭和町2-1
連携における役割	大会の開催・運営、参加チームへのアドバイス、事業化支援		業種 金融・保険業
事業所・団体名	公益財団法人 静岡県産業振興財団	所在地	静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館4階
連携における役割	大会の開催・運営、参加チームへのアドバイス、未利用特許保有企業との交渉・調整、事業化支援		業種 団体
事業所・団体名	一般社団法人 静岡県発明協会	所在地	静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館1階
連携における役割	大会の開催・運営、参加チームへのアドバイス、未利用特許保有企業との交渉・調整、事業化支援		業種 団体
事業所・団体名	浜松いわた信用金庫	所在地	静岡県浜松市中央区元城町114-1
連携における役割	大会の開催・運営、参加チームへのアドバイス、事業化支援		業種 金融・保険業

11 住み続けられるまちづくりを

インクルーシブ防災活動でつながる、災害時にも誰一人取り残さない地域づくり P6

事業所・団体名	◎ 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会	所在地	静岡市駿河区小鹿2-2-1
連携における役割	西豊田学区を基盤とするインクルーシブ防災活動の企画・運営、年間のインクルーシブ防災活動をマネジメント(定例会毎月第4金)		業種 団体(任意団体)
事業所・団体名	静岡市立豊田中学校 静岡市立西豊田小学校	所在地	静岡市駿河区豊田1-3-1 静岡市駿河区曲金2-8-80
連携における役割	生徒への活動チラシ配布・テトルでの活動周知、宿泊型訓練の会場(体育館)を小・中隔年で使用、令和6年度は各1基かまどベンチを設置		業種 教育機関
事業所・団体名	静岡市駿河区役所地域総務課 静岡市危機管理局危機管理課	所在地	静岡市駿河区南八幡10-40 静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	駿河区地域総務課は事前研修の講師を担当、地区支部員の宿泊訓練参加及び危機管理課による協定ディーラーEV車給電デモを担当		業種 行政機関
事業所・団体名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 駿河区地域福祉推進センター	所在地	静岡市駿河区南八幡3-1
連携における役割	関係する地縁組織、施設・福祉事業所及び一般住民への活動周知、社協職員の年間を通じた活動参加、一連の活動に必要なの資機材を提供		業種 団体(社会福祉法人)

事業所・団体名	イワタニ首都圏 株式会社 静岡営業所	所在地	静岡市清水区7ツ新屋373
連携における役割	宿泊訓練及び親子避難所キャンプの炊き出し用LPガスの充填、ボンベ耐圧検査、アライプや回収CB缶の提供などで活動をサポート		業種 電気・ガス
事業所・団体名	明治安田生命保険相互会社 静岡支社静岡東営業所	所在地	静岡市葵区常盤町1-4
連携における役割	年間を通じたインクルーシブ防災活動への職員参加及び親子避難所キャンプにおける健康チェック(血管年齢測定、ベジチェック)ブースを担当		業種 金融・保険業

リフィル行動で、使い捨て容器を減らそう P19

事業所・団体名	◎ カチカチ鳥	所在地	静岡市葵区安西5-75-1 ブランステージ703
連携における役割	Refill 静岡 事務局 静岡県内のマイ容器・給水スポットの開拓 イベント出展等による啓発		業種 団体
事業所・団体名	水Do!ネットワーク	所在地	東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階
連携における役割	Refill Japan 運営事務局		業種 団体
事業所・団体名	民間のカフェや量り売りのお店等	所在地	静岡県内
連携における役割	マイ容器・給水スポット登録店		業種 サービス業
事業所・団体名	静岡市環境局 ごみ減量推進課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	静岡市内の公共給水スポット登録のサポート窓口		業種 行政機関

地域共創～呉服町から発信する魅力ある静岡市! P20

事業所・団体名	◎ 株式会社 静岡銀行 呉服町支店	所在地	静岡市葵区追手町1-13
連携における役割	呉服町エリア支店(呉服町支店、しずはた支店、新通支店) イベント企画・運営者		業種 金融・保険業
事業所・団体名	呉服町商店街	所在地	静岡市葵区呉服町 各所
連携における役割	[おまちゼミナール]共同開催者		業種 団体
事業所・団体名	取引先企業・大学生・静岡市	所在地	静岡市内 各所
連携における役割	[駿府城夏まつり]共同出展者・企画立案		業種 卸売・小売・飲食業 行政機関、教育機関
事業所・団体名	駿府の工房 匠宿	所在地	静岡市駿河区丸子3240-1
連携における役割	[SDGs Runway SHIZUOKA]共同出展者		業種 卸売・小売・飲食業

12 つくる責任 つかう責任

鉄道制服がバッグに大変身!静岡鉄道×地元ブランドのアップサイクルプロジェクト P8

事業所・団体名	◎ 静岡鉄道株式会社	所在地	静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 静鉄鷹匠ビル
連携における役割	環境啓発活動・不要になった制服のお渡し		業種 運輸・通信業
事業所・団体名	ものがたりを着るお店 choosy	所在地	静岡市葵区古庄3丁目18-12 日本ルーテルひかり協会 古庄園舎103号室
連携における役割	アップサイクル商品の製作・販売		業種 卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	株式会社 静鉄アド・パートナーズ	所在地	静岡市葵区日出町8-3 静鉄日出町ビル1F
連携における役割	環境啓発活動にかかる動画・パネル製作		業種 サービス業

13 気候変動に具体的な対策を

公民連携で地域で熱中症を減らす取組への挑戦 P21

事業所・団体名	◎ 大塚製薬 株式会社 ニュートラシューティカルズ 事業部 東海支店 静岡出張所	所在地	静岡市駿河区西中原1-2-11
連携における役割	熱中症対策会議主催団体。熱中症対策に関する知見を基に啓発ツールの作成・提供、各団体との調整・提案		業種 製造業

◎ お問合せ代表

事業所・団体名	静岡市 GX推進課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	行政熱中症担当課 各団体との調整・提案取りまとめ		業種 行政機関
事業所・団体名	イオンリテール 株式会社 中部カンパニー	所在地	静岡市清水区上原1-6-16 イオン清水店内
連携における役割	熱中症患者減少を目的としたクーリングシェルターの開設及び地域住民への啓発活動(啓発資材の設置、啓発動画の配信等)		業種 卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	一般財団法人 静岡県サッカー協会 中部支部(静岡サッカー協会)	所在地	静岡市葵区二番町4-10 サンシャイン二番町101
連携における役割	スポーツ分野(サッカー競技者)への熱中症啓発活動(指導者の熱中症対策アンバサダー講座受講)		業種 団体
事業所・団体名	一般社団法人 静岡市薬剤師会	所在地	静岡市駿河区小黒1-4-4
連携における役割	クーリングシェルター開設及び熱中症啓発活動		業種 団体
事業所・団体名	ウエルシア薬局 株式会社 東海支社	所在地	静岡市葵区三番町21-1
連携における役割	啓発・対処・対策を担う、生活インフラ拠点としての協力(ウエルカフェ中心としたご来店者様への発信、うえたん号から過疎地への発信)		業種 卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	熱中症対策活動を目的とした熱中症対策アンバサダー講座受講(試合会場運営スタッフ、アカデミー、スクールコーチ等)		業種 サービス業
事業所・団体名	株式会社 杏林堂薬局	所在地	静岡県浜松市中央区板屋町111-2 浜松アクトタワー13階
連携における役割	熱中症患者減少を目的としたクーリングシェルターの開設及び地域住民への啓発活動(啓発資材の設置、啓発動画の配信等)		業種 卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	株式会社 テレビ静岡	所在地	静岡市駿河区栗原18-65
連携における役割	熱中症に関する取り組みのニュースでの放映、ウェブ媒体への掲載		業種 サービス業
事業所・団体名	株式会社 VELTEXスポーツエンタープライズ	所在地	静岡市葵区宮前町107
連携における役割	熱中症対策啓発動画・ポスターの作成協力		業種 サービス業
事業所・団体名	コジマ × ビックカメラ静岡店	所在地	静岡市駿河区国吉田1-1-57
連携における役割	施設提供、普及啓発活動、商品・サービスを通じた熱中症対策支援		業種 サービス業
事業所・団体名	静岡県経済農業協同組合連合会	所在地	静岡市駿河区曲金3丁目8-1
連携における役割	農業従事者への情報発信		業種 農業
事業所・団体名	静岡市消防局	所在地	静岡市駿河区南八幡町10-30
連携における役割	消防隊員の熱中症の知識向上に向けた熱中症対策アンバサダー講座受講		業種 行政機関
事業所・団体名	静岡市健康づくり推進課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	専門職からの直接的な市民に対する熱中症啓発		業種 行政機関
事業所・団体名	静岡市教育委員会	所在地	静岡市清水区旭町6-8
連携における役割	教職員・児童生徒の熱中症に対する知識向上に向けた熱中症対策アンバサダー受講、各学校への掲示物配架		業種 行政機関
事業所・団体名	静岡市農業協同組合	所在地	静岡市駿河区曲金5丁目4-70
連携における役割	農業従事者への情報発信		業種 農業
事業所・団体名	静岡鉄道 株式会社	所在地	静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 静鉄鷹匠ビル
連携における役割	静岡鉄道 静岡清水線 電車内・駅にて熱中症啓発ポスター・サインエジ掲出		業種 運輸・通信業
事業所・団体名	清水農業協同組合	所在地	静岡市清水区庵原町1
連携における役割	農業従事者への情報発信		業種 農業
事業所・団体名	清水薬剤師会	所在地	静岡市清水区渋川2-12-1 清水保健福祉センター4F
連携における役割	クーリングシェルター開設及び熱中症啓発活動		業種 団体

事業所・団体名	鈴与商事 株式会社	所在地	静岡市葵区栄町1-3 鈴与静岡ビル7F
連携における役割	従業員が熱中症対策アンバサダー講座を受講したことで、熱中症対策の認識を得た(従業員の熱中症啓発)		業種 建設業・電気・ガス卸売・小売・飲食業
事業所・団体名	独立行政法人 環境再生保全機構	所在地	神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー8階
連携における役割	熱中症に関する情報提供(会議参加団体向け)		業種 行政機関
事業所・団体名	マックスバリュ東海 株式会社	所在地	静岡県浜松市中央区篠ヶ瀬町1295-1
連携における役割	熱中症患者減少を目的としたクーリングシェルターの開設及び地域住民への啓発活動(啓発資材の設置、啓発動画の配信等)		業種 卸売・小売・飲食業



陸の豊かさも守ろう

産官学民連携により、麻機遊水地の生物多様性を未来に紡ぐ P10

★ 本件のお問合せ先

事業所・団体名	◎ 静岡理工科大学 理工学部 居波研究室	所在地	静岡県袋井市豊沢2200-2
連携における役割	産官学民連携総括・ドローン調査研究・防除活動 担当		業種 教育機関
事業所・団体名	常葉大学 社会環境学部 浅見研究室	所在地	静岡市駿河区弥生町6-1
連携における役割	イベント企画・防除対策検討、調査研究、防除活動 担当		業種 教育機関
事業所・団体名	昭和設計 株式会社	所在地	静岡市葵区若松町41-1
連携における役割	イベント企画・防除対策検討、設計・防除活動 担当		業種 サービス業(建設コンサルタント)
事業所・団体名	麻機ウェットランドクラブ	所在地	静岡市葵区北3丁目20-20
連携における役割	防除活動・希少種保全対策 担当		業種 団体
事業所・団体名	★ 株式会社 環境アセスメントセンター	所在地	静岡市葵区清閑町13-12
連携における役割	広報・調査・環境教育・防除活動 担当		業種 サービス業(建設コンサルタント)
事業所・団体名	株式会社 自然回復	所在地	兵庫県神戸市西区長畑町8-9-201
連携における役割	イベント企画・防除対策検討・防除活動 担当		業種 サービス業
事業所・団体名	一般社団法人 グリーンパークあさはた	所在地	静岡市葵区北2丁目10-20
連携における役割	広報・環境教育・防除活動 担当		業種 団体
事業所・団体名	株式会社 静岡銀行	所在地	静岡市清水区草薙北2-1
連携における役割	広報・防除活動 担当		業種 金融・保険業
事業所・団体名	静岡県環境アセスメント協会	所在地	静岡市葵区清閑町13-12
連携における役割	広報・環境教育・防除活動 担当		業種 団体

美しい松原の風景を後世に 三保松原保全啓発 P22

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体		業種 サービス業
事業所・団体名	静岡市三保松原文化創造センター みほしるべ	所在地	静岡市清水区三保1338-45
連携における役割	実施主体		業種 行政機関
事業所・団体名	株式会社 故紙センタートヨタ	所在地	静岡市駿河区豊田3丁目10-16
連携における役割	実施協力		業種 卸売・小売・飲食業

本事例集の取組事例において、提出された応募シート(R7.9時点)を原則そのまま掲載しております。
中には国際連合広報センターが掲載している「カラーホイールを含むSDGsロゴと17のアイコンの
使用ガイドライン」に適しない表記等が見られる場合がございますので、ご注意ください。